

令和 6 年度「仙台大学 DX 人材育成プログラム」の自己点検について

No.	項 目	点 検 結 果	内容・改善等
1	プログラムの履修・修得状況	○	令和 6 年度の修了者は過去最多の 491 名となり、累計修了者数は 1,142 名に達した。履修者の増加要因としては、DX 人材育成プログラムが完成年度を迎えたことや、新年度オリエンテーションでの周知の効果が考えられる。今後も同様の学内広報を継続し、さらなる履修者の増加を図る。 また、来年度以降は新たな DX 人材育成プログラムとして、「応用基礎レベル」の文部科学省申請を計画しており、教育の一層の充実に向けて取り組んでいく。
2	学修成果	○	「情報処理」では、ICT に対して苦手意識を持つ学生に対しても、文部科学省の認定プログラムを意図した授業を展開することで、AI やデータサイエンス向けの教材をより身近なものとして取り上げることができた。今後は、「資格認定」という具体的な学修目標をさらに有効に活用し、学習の動機付けを強化していきたい。 「教養数学」では、(運動生理学などの研究におけるデータの処理・表現を意識させながら、)統計的手法を用いてデータを整理・表現する力や、複数の標本集団の差異の有無を考察する力を養うことを目標に指導を行った。その結果、多くの学生が統計的手法の基礎を身に付けることができた。
3	学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	○	授業科目ごとに開講時限別の授業アンケートを実施するとともに、修了者を対象に「本教育プログラムを通じた学びについて」のアンケートを行っている。これらの結果から、学生は概ね学修内容を理解し、数理・データサイエンス・AI に関する知識やスキルの向上を実感していることが確認された。さらに教育効果を高めるため、授業担当者間で意見交換を行い、授業改善に努めている。
4	学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	○	修了者を対象に「本教育プログラムを通じた学びについて」のアンケートを実施した。その結果、大半の学生が本教育プログラムを推奨したいと考えていることが明らかになった。また、修了証を電子データで交付しており、学修の成果が「見える」形として残ることも、推奨理由の一因となっている。
5	教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	○	修了者 1,142 名 のうち、修業年限を迎えて就職したのは 334 名であった。進路の内訳としては、半数以上が一般企業へ就職し、DX 人材育成プログラムで修得したデジタルスキルや課題解決力を活かせる職種に就いている。

6	産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	○	卒業生が在籍している事業所や学内合同業界研究セミナー参加企業に対してアンケート調査を実施し、採用側が在学中に身につけてほしい ICT スキル等の意見を聞き取っており、今後の本教育プログラムの教育内容を充実するための資料としている。
---	-------------------------------	---	---

以上